

石巻市復興まちづくり情報交流館

東日本大震災の被害を受けた地域で新たに人が集うことのできる場所づくりにデザイナーとして参加。現地に滞在し、ロゴタイプやサインなどのグラフィックを作成。



北上館 外観（館外の吊りサインを作成）



雄勝館 外観（館外壁面の貼付サインを作成）



雄勝館 ロゴタイプ



牡鹿館 ロゴタイプ



オーダーメイドの船

漁師の仕事に欠かせないものといえば船。集落ごとに船大工がいて、その集落の漁師の船づくりを一手に担っていました。雄勝町の船大工の職は減りましたが、それでもアワビやウニを獲る小さな船は、地元で船大工がつくるに慣る、という人も多いです。雄勝の漁を知らない人がつくるものは、どこかしっくりこない。と、今は、よその船を、雄勝住人にカスタマイズするの、船大工の仕事です。現在はまだ、（雄勝産アワビ専用）でつくる船が主流ですが、それでも手づくり、1.0mの小型の船を、ひとりで4.0日ほどかけて完成させます。



石巻市復興まちづくり情報交流館
02011 1000
大蔵 | 1986-1301 | 001

情報シート（地域の情報を伝えるポスター）

旬を捉える刺し網漁

雄勝で行われる漁のひとつが、刺し網漁です。刺し網とは、固定式の網を魚が通りそうなところに仕掛け、数時間から1日後に網を引き上げる漁法。狙った魚の種類によって網目の大きさをかえたり、着色したりといった工夫も、漁師の腕の見せどころです。豊かな漁場では、獲りやすい魚に限って漁をし続けることも短期的には可能ですが、それを続けるるとすぐに魚は減っていきます。その反省に立ち、さまざまな種類の魚を、季節をずらして少しずつ獲ることで、資源を守ろうとする動きが徐々に広がっています。



郷土で漁（写真：石巻市庁舎）



2016年 雄勝町漁業協議会

刺し網 漁法

絵冊 | 1986-1301 | 001 | 発行 2016年 3月14日 雄勝町 | (1974年6月発行)

あなたの想いを残してください



ピクトグラム